

2017年度助成分

■講演会等の名称

「インクルーシブ・フロンティア・サロン：
女性だから、障害があるから輝き活躍する場」

研究代表者：

柴田邦臣 (津田塾大学インクルーシブ教育支援室・ディレクター)

主催団体名/代表者名：

津田塾大学インクルーシブ教育支援室

主な講演者名：

Jean Johnson (Associate Director, Center on Disability Studies, University of Hawaii) 2017年

股野儷子 (筑波大学附属視覚特別支援学校・小学部講師) 2018年

林 豊彦 (新潟市障がい者ITサポートセンター所長/新潟大学・教授) 2019年

田原三保子 (小平市市民活動支援センター所長/小平市市民活動ネットワーク理事) 2019年

Taeko N. Wydell, (Professor, Brunel University) 2019年

会場名：

津田塾大学小平キャンパス、千駄ヶ谷キャンパス、オンラインzoom開催

実施期間：2017年10月1日～2020年9月30日

【講演会等の概要】

女子大として、女性を中心に、障害のある方々、地域住民、高齢の方々とインクルージョンに関する講演会・イベントを開催し、それを核としてサロン形式で定期的で開催されることで、障害のある女性をはじめ、地域社会の市民が連携して、社会参加を志す基盤となるサロンの形成を図ることが、このイベント企画の目的である。特に本学は女子教育機関として、障害のある子どもたちのインクルージョンを重視しつつ、そこに女子学生をはじめとした女性が積極的に社会貢献を図るような講演会・イベント・サロンを継続して開催することで、社会的包摂のフロンティアを開拓した。

具体的には、講演会企画を出発点として、以下の3つを実現することができた。

A) 年1回の講演会、関連イベントの開催

「津田塾が拓くInclusiveな未来」として、2017年から2019年にかけて、大規模なイベントを開催した。いずれも、女性支援を命題とする津田塾大学の学園祭と連動し、地域住民に広く開かれた講演会となった。2017年度はのべ600人、2018年度はのべ900人、そして2019年はのべ1000人を超える参加者を得ることができた。特に2019年度は講演会をさらに発展させ、地域と連携を深め、小平市の後援を得て、女性支援団体、福祉団体と交流し支え合えるようなマーケットを追加で実施し、好評いただいた。

B) サロンとしての定期化。そのためのイベント・ワークショップ

本企画の主眼は、一回きりの講演会だけでなく、それを起爆剤に、社会参加する女性・女子学生を中心に、障害のある方々など社会的マイノリティと地域市民とが連携できるサロンとして提供し続ける点にある。A) 講演会をきっかけに、3年間で計17回の、インクルージョンに関連するミニ講演会・イベントを開催した。各回平均で40名、合計では700名近い参加をいただき、サロンとしての実態を生み出した。

C) サロンのオンライン化

本企画は、オンラインでの講演会の提供を当初から構想していたが、その真価が問われたのが、2020年の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による社会危機であった。感染対策による外出困難は、地域での市民活動、特に、休校したり部活動がなくなったりした障害のある子どもたちの「学ぶ場」の危機として現出した。これまで築いてきたインクルーシブ・フロンティア・サロンとして、最終段階の2020年度にはWebをもちいたオンラインでの支援やイベント・サロンを開催し、「まなキキ」として地域社会に広く受け入れられている。

2015年度助成分

■講演会等の名称

「女性の智慧が創る新しいキャプテンズ・オブ・インダストリー」

研究代表者：

山下裕子（一橋大学大学院経営管理研究科・教授）

主催団体名/代表者名：

一橋エルメス会/海部美知、山下裕子

主な講演者名：

ケイティ・メイザー（カーギル ヨーロッパ・中東・アフリカ HRディレクター）

フラン・マイヤー（BabyQuip創業者・CEO）

江川雅子（一橋大学大学院経営管理研究科教授）

会場名：

学術総合センター 一橋講堂・中会議場

実施期間：2015年9月1日～2021年3月31日（メインの国際会議は、2018年11月11日）

【講演会等の概要】

ジェンダー格差への関心は高く、女性一般を対象とした労働者としての女性にフォーカスを当てる議論の蓄積が進んできたが、経済分野でのジェンダーギャップの低さの主要因は、「管理職におけるジェンダー格差」である。一橋大学の女性卒業生は、雇用均等法以降、様々な分野のパイオニアとして道を切り拓き、企業社会へのスタート時において男性とのギャップを感じない「目恵まれた環境」を獲得してきた。しかし、今なお管理職への昇進やリーダーシップ発揮には壁が存在している。

リーダーシップにおける男女格差が本当にあるのか、その原因はなにか、そのためにはどうしたらいいのかを議論するための場を設計し、ネットワーク活動を促進するように、一連の活動の企画運営を行った。

5年間の活動経緯は次の通りである。

(1) 世代や分野を越えたネットワークの構築と、智慧の共有・議論

一橋エルメス会ウェブサイト構築 <https://teamhermes.wixsite.com/hermes-2>

(2) 海外の同窓生ネットワークと関係を作り、海外のネットワーク活動の実例に学ぶ。

オックスフォード大学、スタンフォード大学、ハーバード大学

(3) 女性のリーダーシップのための「プレ&アフタ会議」「勉強会」

【事前活動】（貴助成申請前の活動）

2013年第1回 現状：Now and Beyond

2013年第2回 企業：企業の取り組み

2014年第3回 家庭：生活経営のマネジメント

【プレ&アフタ会議】

2015年第1回 転職：自分らしさを発揮しながらうまくいく方法

2016年第2回 感情：アンガー・マネジメント：安藤俊介氏

2016年講演会 世界：オープンソサエティ:ビル・エモット氏

2017年第3回 変革：働き方に教科書なんていない！：出口治明氏

2019年第4回「主導権を取るための戦略的コミュニケーション」：ケリアン・パノス氏

【勉強会】

2016年第2回日本：働く女性と日本企業：濱口桂一郎氏&大久保幸夫氏

2018年座談会 変革：難題解決に叡智を結集せよ：ビル・エモット氏・藤田通紀氏・中嶋由美子氏

(4) 一橋卒業の男女卒業生のアンケート調査の実施：浅野浩美

(5) 国際会議の開催（2018年11月11日）

https://www.hit-u.ac.jp/hq-mag/hitotsubashi_woman/329_20190320/